

# ジェンダー・格差センシティブな 働き方と生活の調和:

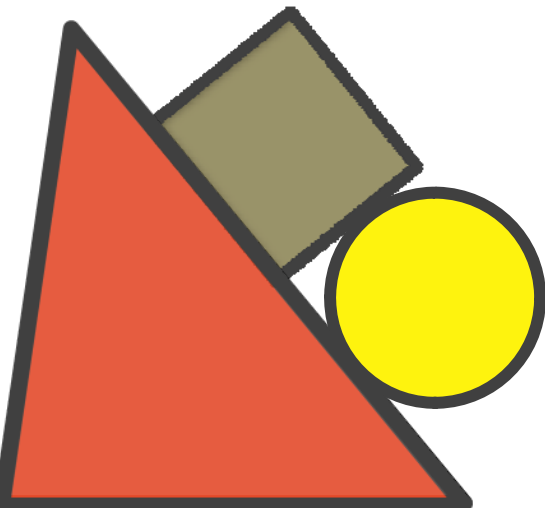
キャリア形成と家庭・地域・社会活動が可能な働き方の設計

研究代表者

お茶の水女子大学大学院

人間文化創成科学研究科

教授 永瀬伸子





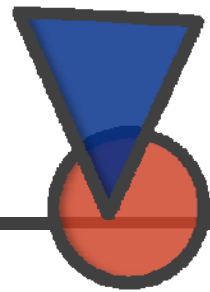
# 想定される近未来の課題

1 非婚・少子化の進展、人的活力の低下

2 男女の非正規雇用の拡大、低所得と将来不安、働く上での技能形成とモラルの低下

3 女性の就業継続困難のストレスと育児や親子関係への緊張感、男性の長時間労働

4 ワークライフバランスを可能とする雇用システム、採用、人材育成、昇進の在り方を支える法体系、人事慣行の未整備



# 課題は意識されているが 実効性に欠けるワークライフバランス政策

出産離職の増加

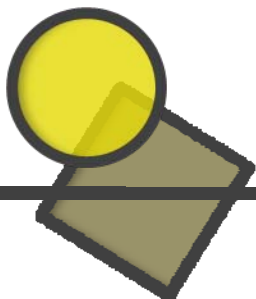
母親の子育てに対するバーンアウト

父親の育児休業取得率の低さ

シングル男女の家族形成の困難さ  
雇用形態の不安定、長時間労働

働き方の改革は  
喫緊の課題

よりジェンダー・格差センシティブな  
ワーク・ライフ・バランスの策定が必要



# 本研究の目的

女性のキャリア形成の困難と  
男性の育児家事参加の困難  
の**原因の解明**

家族のWell-Beingと子どもの育ち  
を大切にする雇用と家族の在り  
方とこれを支援する**政策の提示**



# 本研究の特徴と意義

1 企業・家族の統合調査の学際的アプローチ

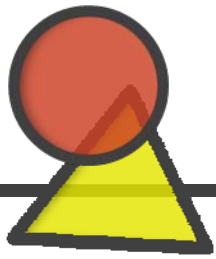
2 女性の経験、視点の重視

3 若い層の意識変化の重視

4 発達心理学、家族社会学と労働経済学との協業

5 ロール・モデルの抽出

6 国際的視点と研究方法の多様性

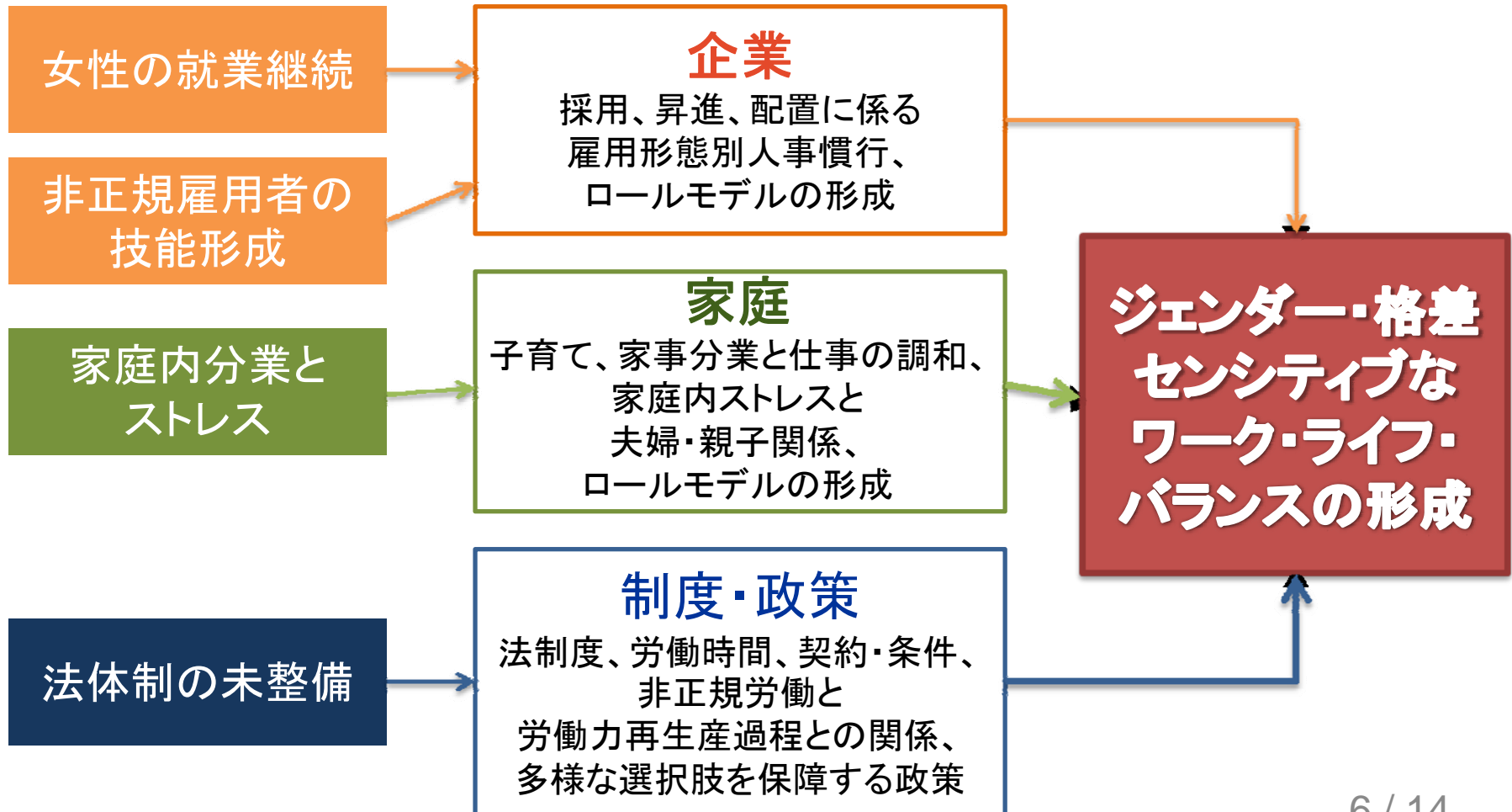


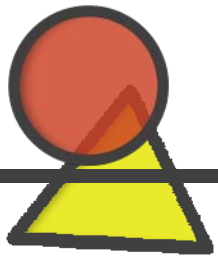
# 概念・調査枠組み図

課題

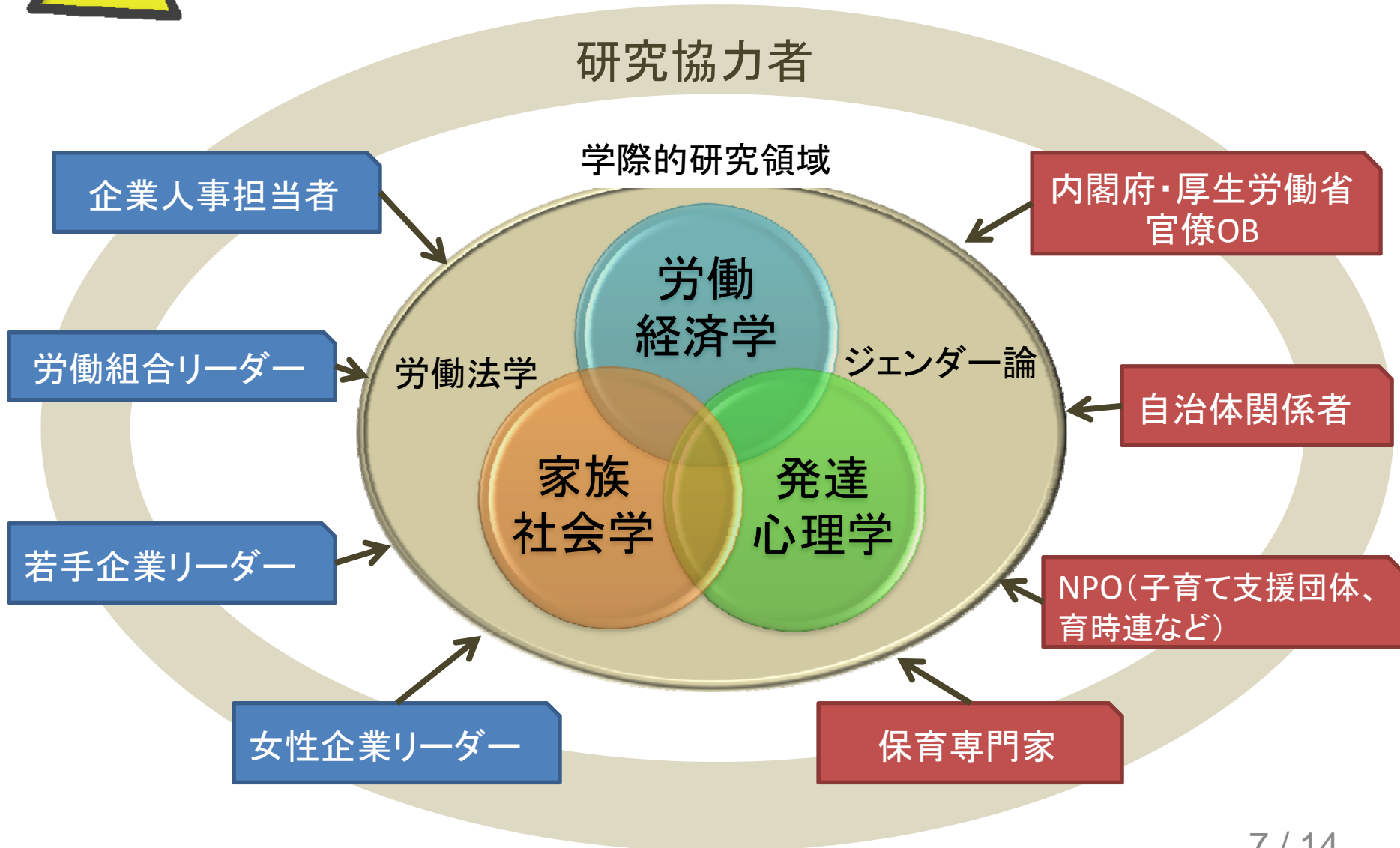
目的・調査

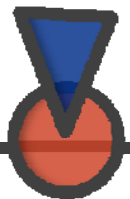
意義



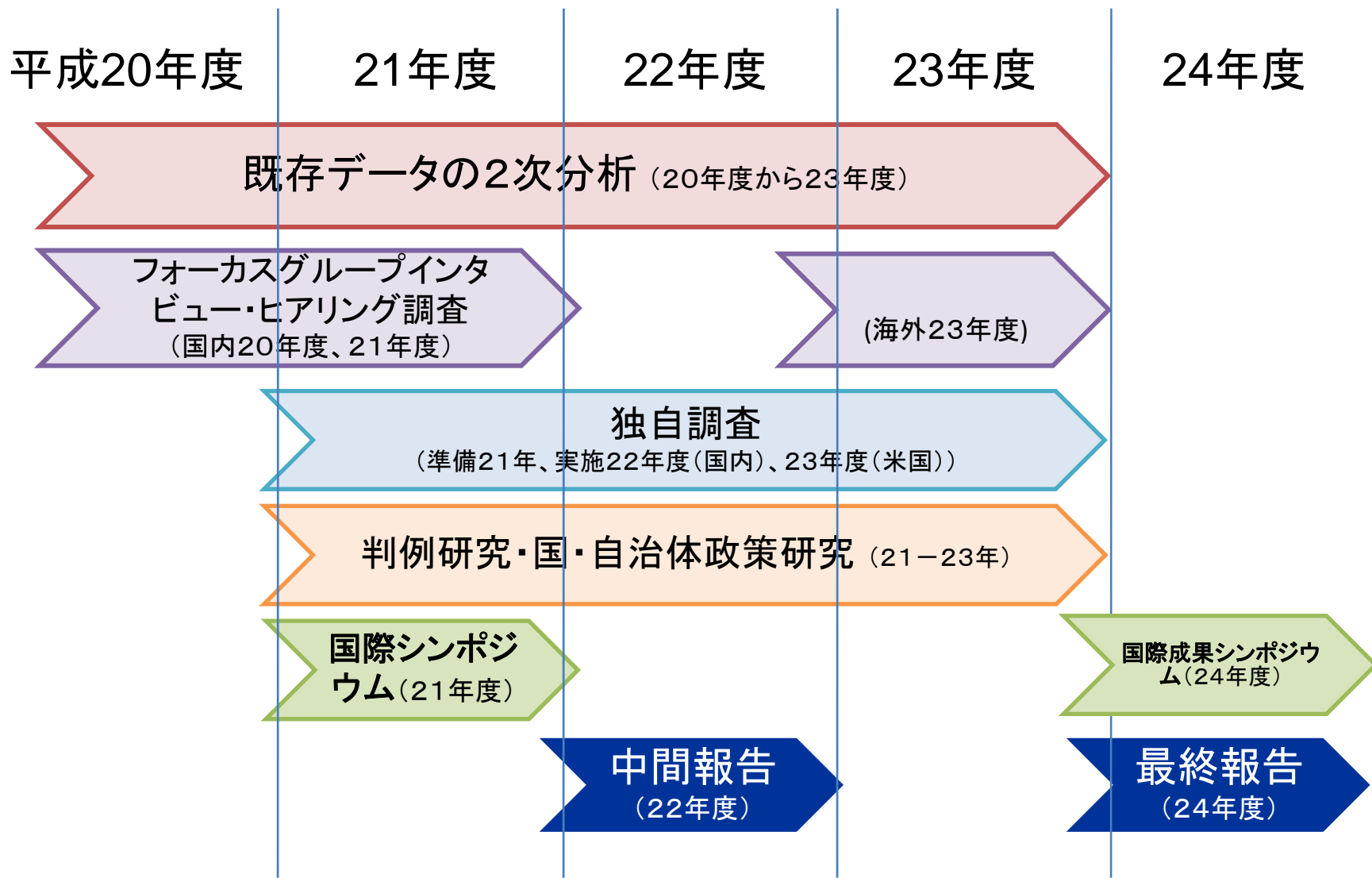


# 構成メンバー

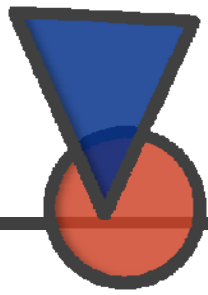




# 年次計画







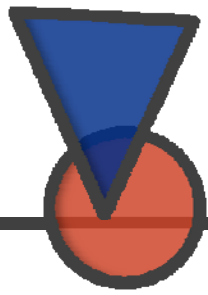
# 調査方法：質的調査

## フォーカス・グループ・インタビュー

職層、学歴、男女、年齢別グループによる、家庭生活と職場の雇用条件に関するディスカッション

## ヒアリング調査

企業における昇進や賃金制度、企業内の技能形成システムと、非正規、男女の活用などに関するヒアリング



# 調査方法：量的調査

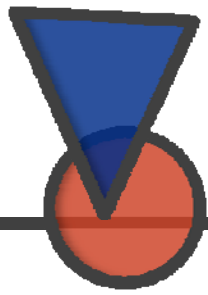
## 既存調査の2次分析

総務省統計局『労働力調査』 総務省統計局『社会生活基本調査』  
夫婦の賃金と労働時間、および生活時間の分析

ベネッセコーポレーション次世代育成研究所「妊娠・出産・子育て基本動向調査」  
縦・横断的調査データ、ワーク・ライフ・バランスと家族関係の形成過程および  
乳幼児期の子どもの発達の分析

日本家族社会学会 『全国家族調査(National Family Research, NFR)』  
家庭生活環境と家族関係、親役割に関する分析

内閣府『少子化社会に関する国際意識調査』（2005）  
韓国、米国、フランス、スウェーデンの仕事と家庭と子育ての日本との比較分析



# 量的調査：独自調査

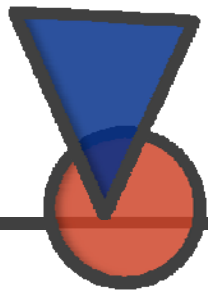
『家族からみたワーク・ライフ・バランスに関する調査』

対象：**大都市圏、地方都市在住の子育て期の男女**

内容：**ワーク・ライフ・コンフリクトの規定要因**



家事・子育て分業、働き方、性別役割分業観、  
保育園等社会施設の整備状況、  
企業での働き方や、昇進見通し、  
業績評価、裁量の余地などとの関連



# 国際比較研究

1

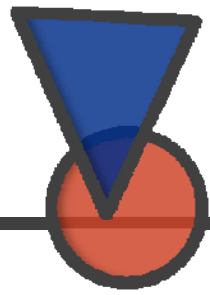
国際シンポジウム：(21年度)  
米国、英国、オランダ、仏国、ノルウェーから研究者を招聘

2

比較調査研究：  
日本での独自調査を米国西岸都市でも実施

3

既存二次分析  
(内閣府による5カ国比較統計)



# 政策分析研究

1

政府・地方自治体・企業・労働組合における  
政策・方針枠組みと運用実態について分析検討

2

ワーク・ライフ・バランス先進国の政策および  
法制度の**国際比較調査研究**

3

労働法学の先行研究および判例分析

# 多様なロールモデル研究

1

若い層が興じたベンチャー企業における新たな働き方の調査分析

2

ワーク・ライフ・バランスセミナーの企画者、受講者等の分析

3

既存企業におけるロールモデルの分析

